

急性発症した全身皮膚症状を経て大学生活へ戻った成人アトピーの経過 (21 歳 成人)

症例 ID：001-20-MK | 記録日：2014 年 12 月 3 日

1. 診断・治療前経過

大学 1 年終わりから 2 年始めにかけて、首、耳、手の甲、下半身を中心に痒みと浸出を伴う皮膚症状が急に出ました。市販薬や近医の処方薬では改善せず、松本医院で治療を開始しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	市販薬と近医処方薬の使用歴があります。ステロイド含有の有無や詳細は不明です。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	不明です。
中止時期	不明です。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
2 月末頃	発症	首元の痒みから始まり、複数部位へ広がりました。
3 月中旬頃	症状の強い時期	傷口からリンパ液が出て、下半身症状で歩行が辛い状態でした。
松本医院受診後	治療開始	漢方治療を開始しました。
治療初期	リバウンド	全身の痒み、痛み、浸出、だるさが強くなりました。
約 2 か月間	療養	寝て過ごす時間が多く、大学へ通うことにも支障がありました。
5 月初め頃	改善傾向	症状がかなり軽減しました。
追記時点	経過後	翌春は軽い症状のみで、日常生活への支障はほとんどありませんでした。

4. ピーク時期

ピークは、3 月中旬から治療初期にかけて、全身の痒み、痛み、浸出、歩行困難が重なった時期です。

5. 困りごと

- 下半身症状により歩くことが難しい時期がありました。
- 浸出液、痛み、だるさで寝て過ごす時間が多くなりました。
- 大学生活への参加に支障がありました。

6. 経過のまとめ

5 月初め頃から症状は大きく軽減し、活動できる状態に戻りました。

翌春は軽い症状のみで、日常生活への支障はほとんどありませんでした。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。